

ナウマンゾウの臼歯の化石



第4展示室にある日本最大級のナウマンゾウの臼歯（登録番号 GSJ F16097）。上の写真の下方に噛み合わせ面があり、生息時にはほとんどの部分が上あごの中に隠れている。下の写真は噛み合わせの面から見たもの。写真の横幅は約25 cm。

地質標本館から3 kmほど離れた花室川では、約3万年前のナウマンゾウ（*Palaeoloxodon naumanni*）の歯や骨の化石がたくさん見つかっています。

ナウマンゾウは、約30万年前から2万年前ころまで九州から北海道までの広い範囲に生息していたゾウのなかまです。これまで全国のいろいろな産地から知られている化石から、ナウマンゾウは、肩までの高さが約2~2.7 m、キバの長さは1~2 mほどになり、現生のアフリカゾウやアジアゾウに比べると小型のゾウです。

花室川で2002年夏に見つかったこの臼歯（奥歯）の化石は、ナウマンゾウの中でも最大級のもので、これを見つけて地質標本館に寄贈してくださった筑波大学のI先生は、初めは川原に長靴が落ちているのかと思ったそうです。噛み合わせの面が「長靴の底」にあたります。地質標本館第4展示室にあるこの標本を見て発見当時のI先生の感動が伝わると幸いです。第4展示室では別のナウマンゾウの臼歯のレプリカを触れる展示もあります。ぜひご来館ください。（地質標本館長 利光誠一）